

〈報告〉

短編映画『ユートピア』制作プロジェクトの報告

島田英二*

Production Report for the Short Film “*Utopia*”

Eiji SHIMADA*

要旨

北海道情報大学情報メディア学部情報メディア学科, 映像表現系ゼミナール（島田英二ゼミ）では, 2011 年より学生主導の短編映画制作プロジェクトを行っている。2023 年度には短編映画『ユートピア』（17 分）を制作した。完成作品は第 19 回札幌国際短編映画祭に入選し, 2024（令和 6）年 10 月に札幌の劇場「サツゲキ」で上映された。本稿は, このプロジェクトの成果について報告する。

Abstract

Since 2011, student-led short film projects have been a feature of Eiji Shimada’s Seminar in the Faculty of Information Media, Department of Information Media at Hokkaido Information University. In AY 2023 the seminar produced a 17-minute short film titled *Utopia*. This paper reports on this film project, from its development through to the screening of the completed film. The film was selected for the 19th Sapporo International Short Film Festival and Market (SSF) and was screened at the Satsugeki Theater in Sapporo in October 2024.

キーワード

映画制作 (Film production) 短編映画 (Short film) 映画演出 (Direction) 映画祭 (Film festival)

*北海道情報大学情報メディア学部情報メディア学科教授, Professor, Department of Information Media, Faculty of Information Media, HIU

1. はじめに

本稿は、本学情報メディア学部情報メディア学科で2011年より継続している学生主導の短編映画制作プロジェクトの第13回(2023年度実施)について報告するものである。本プロジェクトは、映像を専門に学ぶ学生が映画祭や映像コンテストへの入選を目指し、短編映画を企画・制作・完成させ、制作者としてコンテストに参加することを目的としている。制作費は参加学生から集めた資金と本学からの助成金によって賄われている。

2. プリプロダクション

2-1 企画開発

2023年度、島田ゼミ16期生の3年生は10名であった。最初の企画会議では、メンバーが持ち寄った案がいずれもいわゆる「バッドエンド」の案であったため、選択が困難であった。そこで学生たちは発想を転換し、ネガティブな題材をコミカルに描くことを考えた。当時、特にネガティブなニュースとして話題になっていた「ハラスメント」が新たなテーマとして挙がった。ハラスメントは通常重い雰囲気の商品になりやすいテーマであるため、これをコメディタッチの作品に仕上げることにした。

2-2 脚本執筆と制作の背景

2023年は、飲食店での度重なる迷惑行為や大手芸能事務所の性加害問題、自動車販売会社の不正およびパワーハラスメント問題など、社会的に大きなハラスメント事件が次々と明るみに出た年でもあった。本企画は9月から始動したが、ハラスメントの中でもパワーハラスメントやセクシュアルハラスメントは社会の関心が特に高く、特定の事件を想起させる可能性があることから、扱いが困難なテーマであった。そこで視点を転換し、「パワハラ」

や「セクハラ」を直接扱うのではなく、ハラスメントが細分化されすぎることによって人々の生きづらさが増している現状を、サタイア(風刺)として描くことに方針を定めた。脚本の推敲にあたっては、「主人公が悪いのではなく、周囲のほうに異常である」という方向性で調整を行った。脚本のフィードバックでは、島田ゼミ8期生が制作した、いじめをテーマとした短編映画『おじいちゃんと少年A』や、不条理をテーマとしたドラマ『マンホール』、海外の短編映画『Pop Foul』なども参照した。今回の脚本開発は、制作スタッフ全員が脚本にアイデアを出し合い、フィードバックを重ねながら、脚本担当が意見を取りまとめて次稿を開発するスタイルであった。リサーチの結果、ハラスメントの種類は約90種類にのぼることが判明し、その中から登場人物がコメディ的な世界観で接することが可能なものを選んだ。また一部には、架空のハラスメントも創作して取り入れた(表1黄色)。タイトルの「ユートピア」には、より良い世界を目指して導入されたルールが、かえって人々の生きづらさを生み出してしまうという皮肉を込めている。

表1 ハラスメント一覧(色付きは作中で採用)

No.	ハラスメント名	説明	分類
1	アカハラ	アカデミックハラスメント	教育環境
2	アルハラ	アルコールハラスメント	うっかり系
3	イジメ	いじめ	弱いものいじめ系
4	ウィルハラ	WILLハラスメント	労働環境
5	エアハラ	エアハラスメント	労働環境
6	エイハラ	年齢に基づくハラスメント	差別的
7	エンハラ	エンジョイハラスメント	うっかり系
8	オカハラ	お菓子ハラスメント	うっかり系
9	オトハラ	音によるハラスメント	うっかり系
10	オワハラ	就活終われハラスメント	教育環境
11	オンハラ	オンライン誹謗中傷	ネット系
12	カジハラ	家事ハラスメント	うっかり系
13	カスハラ	カスタマーハラスメント	労働環境
14	カラハラ	カラオケハラスメント	うっかり系
15	キャンハラ	キャンパスハラスメント	教育環境
16	ケアハラ	ケアハラスメント	労働環境
17	コミュハラ	コミュニケーションハラスメント	うっかり系
18	サイハラ	サイバーハラスメント	ネット系
19	サラハラ	サラリーハラスメント	労働環境
20	ジェンハラ	性差別的ハラスメント	性差別的
21	ジェンハラ	職場のジェンダーバイアス	労働環境
22	ジタハラ	時短ハラスメント	労働環境
23	シルハラ	シルバーハラスメント	弱いものいじめ系
24	スクハラ	学校内でのハラスメント	教育環境
25	ストーカー	ストーカー行為	ネット系
26	スマハラ	携帯電話やスマートフォンを使ったハラスメント	ネット系
27	スメハラ	スメルハラスメント	うっかり系

28	スモハラ	スモークハラスメント	うっかり系
29	セカハラ	セカンドハラスメント	うっかり系
30	セクハラ	性的ハラスメント	性差別的
31	ゼクハラ	ゼクシハララスメント	うっかり系
32	ソーハラ	ソーシャルハラスメント	ネット系
33	ソジハラ (性的指向)	セクシャル・オリエンテーション (SOGI) に基づくハラスメント	性差別的
34	ソジハラ (性同一性)	性同一性 (SOGI) に基づくハラスメント	性差別的
35	データ改竄	データの改竄	ネット系
36	テクハラ	テクニカルハラスメント (技術的な手段を使ったハラスメント)	弱いものいじめ系
37	テクハラ	テクノロジーハラスメント	弱いものいじめ系
38	テクハラ	テクスチュアルハラスメント	性差別的
39	デジハラ	デジタルハラスメント	労働環境
40	テルハラ	電話ハラスメント	労働環境
41	ドクハラ	ドクターハラスメント	うっかり系
42	ヌーハラ	ヌードルハラスメント	うっかり系
43	パーハラ	パーソナルハラスメント	差別的
44	バタハラ	育児休暇ハラスメント	弱いものいじめ系
45	パフォハラ	パフォーマンスに基づくハラスメント	労働環境
46	ハラハラ	ハラスメント・ハラスメント	労働環境
47	パワハラ	パワーハラスメント	弱いものいじめ系
48	パワハラ	人格攻撃	うっかり系
49	ファミハラ	ファミリーハラスメント	労働環境
50	フォトハラ	写真やビデオの不正使用によるハラスメント	ネット系
51	ブラハラ	血液型ハラスメント	うっかり系
52	ベットハラ	ベットハラスメント	うっかり系
53	マケハラ	マーケティングハラスメント	労働環境
54	マタハラ	妊娠に関するハラスメント	弱いものいじめ系
55	マリハラ	マリッジハラスメント	うっかり系
56	マルハラ	。ハラ	ネット系
57	ミリハラ	ミリタリーハラスメント	国家
58	メンハラ	メンタルヘルスへの悪影響を与える行為	労働環境
59	メシハラ	食事に関するハラスメント	うっかり系
60	モラハラ	嘲笑	うっかり系
61	モラハラ	無視	うっかり系
62	モラハラ	職場での名誉毀損	うっかり系
63	モラハラ	モラルハラスメント	うっかり系
64	ラブハラ	ラブハラスメント	うっかり系
65	リスハラ	リストハララスメント	労働環境
66	リモハラ	リモートハラスメント	労働環境
67	レイハラ	人種差別的ハラスメント	差別的
68	レッテルハラ	レッテル貼りハラスメント	弱いものいじめ系
69	レリハラ	宗教に基づくハラスメント	差別的
70	ロジハラ	ロジックハラスメント	うっかり系
71	ユメハラ	夢ハラスメント	うっかり系
72	威圧ハラ	威圧的な言動	弱いものいじめ系
73	家庭内暴力	家庭内暴力	弱いものいじめ系
74	恐喝	恐喝	弱いものいじめ系
75	軍隊ハラ	軍隊内でのハラスメント	国家
76	強姦	強姦・レイプ・セクシャルアサルト	性的
77	告ハラ	告白ハラスメント	うっかり系
78	告訴ハラ	告訴ハラスメント	労働環境
79	思想ハラ	思想的迫害	労働環境
80	集団イジメ	モッピング	弱いものいじめ系
81	障害ハラ	障害に基づくハラスメント	弱いものいじめ系
82	職場イジメ	職場いじめ	弱いものいじめ系
83	人権侵害	人権侵害	弱いものいじめ系
84	人身売買ハラ	人身売買に関連するハラスメント	弱いものいじめ系
85	性的強要	セクシュアルコースション	性的
86	精神的虐待	精神的虐待	弱いものいじめ系
87	退職ハラ	退職強要	労働環境
88	代理人ハラ	代理人によるセクシャル・ハラスメント	性的
89	不快感	シェイム・ストーミング	弱いものいじめ系
90	不当ハラ	不当な扱いに基づくハラスメント	労働環境
91	不当解雇	不当解雇	労働環境
92	物理的虐待	物理的虐待	弱いものいじめ系
93	暴力ハラ	暴力行為によるハラスメント	弱いものいじめ系
94	無自覚ハラ	マイクロアグレッション	うっかり系
95	賄賂ハラ	賄賂を要求するハラスメント	労働環境
96	絶叫ハラ	絶叫ハラスメント	オリジナル
97	セクシー声ハラ	セクシー声ハラ	オリジナル

2-3 キャスティング

主なキャストは、主人公の 40 代男性・溝口、溝口の妻と娘、溝口の友人・加賀、そして大家役の 5 名で、キャスト事務所を通じて探した。書類選考の後、メインキャストは対面でスタッフとの面談と読み合わせを行い、決定した。主人公の同僚役や上司役、その他エキストラについては学生の大学内の知人・友人・教職員などに出演を依頼した。

2-4 ロケ地

本作の制作ではロケ地の撮影許可の取得が順調に進んだ。まず主人公の溝口の家のシーン (表 2: オレンジ色) が半分近くを占めるため、ロケハンチームはここから着手した。物語の後半に溝口が家族と分かれて一人暮らしをするため、対比を出すためにも、溝口家は分譲マンションまたは一軒家の設定とし、有料・家具付きでレンタルできるアパートメントホテルを使用することとした。複数の候補から写真と設備、交通手段をもとに決定した。あわせて溝口の一人暮らしのマンションのシーンもスタッフの学生の自室に決定した。居酒屋のシーン (表 2: 水色) は、スタッフの一人がアルバイト先に依頼したところ快諾してくれた。最後に情報大の撮影許可を申請し、10 月末には全シーンのロケ地が決定した。ロケ地の決定は例年に比べると 1~2 か月早く、その後の制作準備にとって有利に働いた。

表 2 シーン表

S	PP	設定日	シーン	INT/EXT	D/N	ロケ地	溝口	妻	娘	加賀	同僚 A	同僚 B	EXT
#0	0.2	ハ	ホテル喫煙所	EXT	D	Minn	○						
#1	0.9	イ	オフィス 室内 昼	INT	D	情報大	○				○		
#1.8	0.3	ハ	溝口の家 一軒家	INT	N	Minn	○		○				777号 (南?)
#2	1.1	ロ	オフィス 室内 夜	INT	N	情報大	○					○	
#3	1.2	ロ	居酒屋 室内 夜 (金)	INT	N	Yバイト先	○			○			店員 (男)
#3.5	0.2	ハ	居酒屋 屋外 夜 (金)	EXT	N	Yバイト先	○						
#4	2.1	ロ	家 リビング 昼 (日)	INT	D	Minn	○	○					
#4.8	0.3	ハ	溝口の家	INT	D	Minn	○		○				
#5	0.2	ロ	オフィス 室内 昼 (退職)	INT	D	情報大	○				○	○	上司
#6	1.4	ロ	家 リビング 昼 (別居)	INT	D	Minn	○	○					
#7	1.1	ロ	新居 (アパート) 夜	INT	N	K宅	○			○			
#8	1.6	ロ	新居 (アパート) 昼	INT	D	K宅	○						大家さん SP 第二人

2-5 美術

キャスティングやロケ地の決定が順調であったため、美術の衣装・小道具も順調に進んだ(図1)。小道具は美術担当がリストアップし、制作が必要なものは随時制作した。特徴的なものとしては、劇中の「逮捕状」や「社員証」などがあったが、インターネットでリサーチしながらオリジナルのものに仕上げていった。社員証には社名に「HIU 通信」とあるなど、美術班の遊び心も見られる(図2)。



図1 美術資料(主人公・溝口)



図2 社員証のデザイン

3. 撮影

撮影は2024年2月4日(日)、10日(土)～12日(月祝)、17日(日)の5日間行った。屋外ロケが少なかったこともあり天候の影響も少なく、撮影は予定通り終了した。

3-1 撮影1日目

撮影1日目は午前中に本学(江別市)のGスタジオでアフレコの収録を行い、午後は、ロケ地である岩見沢市の「目利きの銀之進」に移動して居酒屋のシーンを撮影した。キャストや機材は自家用車で、その他のスタッフは公共交通機関を利用して移動した。居酒屋では建物外観のシーンがあり、一部天候(降雪)の影響があったが、天候が穏やかな時を見て撮影を行った。居酒屋は営業時間前の許可であったが、事前に交渉してメニューを注文することができたため、現実感のある環境で撮影できた(図3)。初日の出演者は主人公・溝口役の押本大樹、友人・加賀役の神田正貴の2名で、ヘアメイクには今年もビューティアート専門学校から有志の学生が2名参加してくれた(図4)。



図3 居酒屋での撮影風景



図4 雪の中での初日撮影終了後



図6 キッチンシーンの撮影風景（3日目）

3-2 撮影2・3日目

2週目の撮影は千歳市のレンタルアパートメントホテル「Minn 千歳」でスタートした。機材の搬入には一部、レンタカーを使用した。2月10日（土）は妻役の鈴木梨佳を迎え、主人公の溝口と夫婦のシーンを撮影した。Minn 千歳は撮影目的での完全な貸し切りであったため、周囲を気にせず撮影機材や照明機材を好きな場所に常時配置して、スタジオのように使用することができた（図5）。また、翌日早朝から撮影が行えるよう、撮影スタッフはそのままホテルに宿泊した。11日（日）には娘役の上杉葉月が合流し、主人公の溝口と父娘の会話シーンを撮影した（図6）。



図5 リビングシーンの撮影風景（2日目）

3-3 撮影4日目

撮影の4日目は学生のアパートで主人公・溝口の新居のシーンを撮影した。早朝に Minn 千歳をチェックアウトし、スタッフは移動、江別市で溝口役の押本とヘアメイクと合流し、午前中は溝口の一人のシーンを撮影した。午後から大家役の中田富美子と SWAT 役のエキストラ2名と合流し、ラストシーンを撮影した。撮影現場はワンルームの大きさの部屋で、大人数が入ることはできなかったため、スタッフを必要最低限に減らして撮影した（図7）。

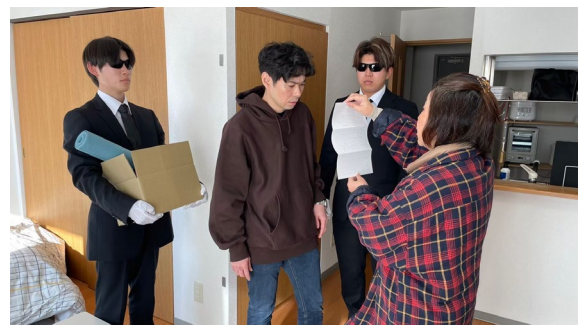


図7 ラストシーンの撮影

3-4 撮影5日目

5日目は、情報大学で職場のシーンを撮影した。オフィスレイアウトを撮影用にコの字型に変更し、映り込む壁面の掲示物や装飾、ホワイトボードの業務連絡、デスク周りの小物な

どの美術の仕込みを行った。日中の業務シーンは蛍光灯の空間とし（図 8）、夜のシーンは照明の色を変更して深夜の残業感を演出した。モニターから漏れる光は俳優の手元に LED ライトを配置して表現した（図 9）。



図 8 昼のオフィスシーンの照明



図 9 夜のオフィスシーンの照明（撮影時）

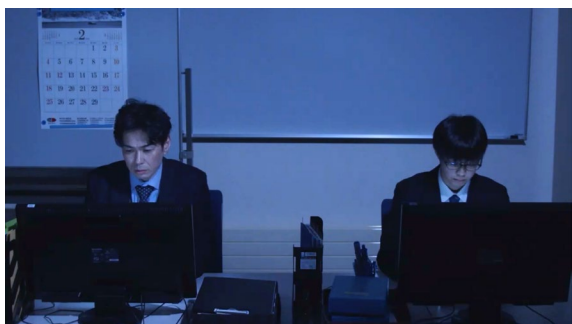


図 10 夜のオフィスシーン（本編より）

4. ポストプロダクション

4-1 編集

編集は Adobe Premiere Pro を使用した。主人公の妄想シーンではライターが宙に浮く演出があり、撮影では同ポジやテグスを使用して吊り上げるなどアナログの手法で撮影したが、編集では Adobe After Effects を使用して不要部分の消去や影の追加などデジタル処理で VFX の仕上げを行った（図 11）。



図 11 ライターが宙に浮くシーン（本編より）

4-2 MA

MA では、音の仕上げに苦労した。マイクはガンマイクとラベリアマイクの 2 種類使用したが、部分的にガンマイクで収録できていないショットや一部でノイズの混入もあったため、なるべく目立たないように修復を試みた。一方、回想シーンの音声やアフレコの加工など、事前の計画通りうまく行った箇所もあり、全体のバランスとしてはよく仕上げられた。選曲はアンビエントも含めて 7 曲で、例年に比べると多めの曲数になった。

4-3 作品情報

完成作品の情報は以下の通りである（表 3）。

表 3 作品情報

作品名	ユートピア
長さ	17 分
フォーマット	FHD 23.976 fps カラー
ジャンル	フィクション
完成年	2024 年
あらすじ (短)	数え切れないほどの「ハラスメント」が存在する社会を生き抜く会社員・溝口の苦悩と葛藤の物語。
あらすじ (長)	愛煙家の会社員・溝口は平凡な日々を幸せに過ごしていたが、ある日、若い部下から「スメハラだ」と言われてしまう。溝口はスメハラの意味すら知らなかったが、その日を境に次々と周囲から「ハラスメント」を指摘されるようになっていく。
主演	押本大樹, 鈴木梨佳, 上杉葉月, 神田正貴, 中田富美子
エキストラ	菅原みづき, 長谷川准一, 隼田尚彦, 高橋一哉, 池口慶, 村上清和, 廣瀬崇人
作品リンク	https://youtu.be/yse-TP6ZdUA?si=wSMupE0fW43rFIMP
予告編リンク	https://youtu.be/m4ggSMoeZgE?si=VcE3h2neo1NyZJyk



図 12 作品画像

スタッフクレジットは以下の通り（表 4）。

表 4 スタッフクレジット (括弧内は制作当時の学年)

監督	近侑一朗 (3)
脚本	横山拓海 (3)
助監督	星海輝 (3), 松田悠花 (3)

助監督応援	高橋航陽 (2), 武藤楽 (2) 山本佳依 (2)
プロデューサー	松田悠花
アシスタントプロデューサー	田中葵葉 (3), 西股ひかり (3)
製作総指揮	島田英二
撮影監督	菊地颯斗 (3)
撮影助手	星海輝
録音	山越梨々華 (3)
録音助手	横山拓海
照明	田中葵葉
照明応援	高橋航陽, 武藤楽, 山本佳依
美術監督	山越梨々華
美術	副島碩 (3), 田中葵葉
ヘアメイク	大高流迦 (札幌ビューティーアート専門学校), 森田心菜 (札幌ビューティーアート専門学校)
キャスティング	副島碩
ロケハン	菊地颯斗, 山越梨々華
編集	近侑一朗
カラリスト	近侑一朗
タイトルロゴ	堀川繭望
ポスター	副島碩
選曲	近侑一朗, 松田悠花, 島田英二
制作	松田悠花, 西股ひかり, 上村琢磨 (4)
車輛	星海輝, 松田悠花, 上村琢磨, 島田英二
予告編制作	星海輝
ロケーション協力	北海道情報大学 Minn 千歳 目利きの銀之進 菊地家
Special Thanks	Casting Office Egg 札幌ビューティーアート専門学校 株式会社ムービーングワーク Studio Riccio 京王プレリアホテル札幌 コープ札幌 野幌店 田中家
Supported by	北海道情報大学 島田ゼミナール

5. コンテスト応募と参加

完成作品を国内の映画祭等に応募していったところ、第 19 回札幌国際短編映画祭に入選することができた。この映画祭では、2024 年は世界 89 の国と地域から 2,058 作品の応募があり、この中から選ばれた 25 の国と地域からの 79 作品が上映された。本作『ユートピア』は北海道セレクションというプログラムの中で上映された。映画祭では、上映前に制作者・関係者による舞台挨拶があり、本プロジェクトの学生チームも参加した。スタッフからは監督の近侑一郎とプロデューサーの松田悠花、出演者の押本大樹、中田富美子が登壇した（図 13, 14）。



図 13 映画祭での舞台挨拶（全景）



図 14 松田悠花プロデューサー（左）と近侑一郎監督（左から二番目）

制作開始から約 1 年が経過したが、作品を作り公的な場所で発表できる嬉しさや、達成感を共有することができた。また、同じプログラムに入選し上映された他の作品を見ることで、現在の自分たちの実力の確認や将来の目標設定をすることができた。



図 15 映画祭でのスタッフ記念写真

4. おわりに

本プロジェクトは 2023 年 9 月～2024 年 3 月に実施した（映画祭の参加は 2024 年 10 月）。この年の 3 年生はプロデューサーとなった学生が商業高校出身でありマネジメント手腕が高かったことと、主要チームメンバー 9 人のうち 4 人が女性で、おおむね技術系が得意な男子学生と、コミュニケーション力の高い女子学生とチームのバランスが良く、チームワーク力が高かったように感じられた。メインのロケ地を貸し切りアパートメントホテルにしたことや、対面のオーディションをホテルの会議室で行ったこと、レンタカーの使用など、費用対効果の判断が適切で、決断も早かったように思われる。

今回の作品はハラスメントをテーマにしたものであったが、ちょうど 2024 年の 1 月から TBS 系列で、テレビドラマ『不適切にもほどがある!』が始まった。このドラマは、コンプライアンスが厳しい令和時代とそうではなかった

昭和時代を対比的に描き、コミカルな要素としてハラスメントが取り上げられ、視聴者の共感を誘った。本プロジェクトにとっては、ドラマの放送開始が撮影の直前であり、脚本を変更することはできず、何ともしがたい状況であった。番組は3月末で終了し、映画祭の開催時期である10月には放送から半年が経過していた。『不適切〜』は基本的にはタイムスリップの物語であり、本作とは直接的には重ならないものの、偶然にもテーマが似てしまったことから、本作を見て『不適切〜』を想起した方もいたかもしれない。

前年に引き続き、屋外撮影の比率が少ない（全12シーン中屋外は1シーンのみ）スケジュールとなり、5日間の撮影であったが天候の影響を受けることも少なかった。また、体調不良の欠席者を出すことなく終了することができた。プロダクションの管理という点では、今後企画選定時には、なるべく全員が参加できるための管理要素として屋外撮影の分量も計算してもよいのかもしれない。一方で、本作を制作したスタッフが作品を見た際の感想として「テレビドラマの第1回目のような印象がある」と語っており、メッセージ性のある映画作品を作るためには、もう少し脚本に検討の余地があったかもしれない。今回は全員の意見を聞き取り入れていく調和的な企画開発が特徴でもあったが、脚本開発期間を長くとれた割には、映画としてはマイルドな作品となった。その年の参加メンバーの個性にもよるが、もう少し学生の作品性や作家性を前に出すことができないか、今後開発する企画においては考えてみたい。

謝辞

本プロジェクトの遂行にあたり、本学から多大な援助を頂いた。心より感謝いたします。

参考文献

宮藤官九郎（脚本）（2024）, TV ドラマ『不適切にもほどがある!』, TBS 系列。

Moon Molson（監督）（2006）, 短編映画『Pop Foul』, USA。

佐藤診（監督）（2016）, 短編映画『おじいちゃん少年 A』, <https://youtu.be/o3Zo597wkFM?si=nmulj7hdD9Ik7sGF>, (2025 年 5 月 10 日アクセス)。

山内ケンジ（原作・脚本・演出）（2002）, 『マンホール』, 世にも奇妙な物語 2002 春の特別編, フジテレビ系列。